

東京 IPO 特別コラム

2016年8月8日 Vol.39

続・アベノミクス相場は既に静かに始まっている!?

都知事選の熱い戦いが小池さんの勝利で終わったと思うと今度はリオ・オリンピック開幕でアスリートたちの熱い戦いが始まっています。また、日本では夏の高校野球が開幕。暑い中の熱い戦いが続く中、先週までの株式相場はクールなまま、方向感の定まらない展開が続いています。

このように賑やかなイベントの陰に隠れて株式相場な穏健なまま推移しています。第1四半期決算の発表がピークを迎えて企業ごとに評価は異なりますが、悪材料が出尽くした銘柄もあれば、改めて売られる銘柄もあり個別銘柄はまちまちながら、好業績が確認できた銘柄にはリスクマネーが入る可能性があります。

アベノミクス相場は2012年12月に始まり2015年6月の高値20,952.71円で一旦の終焉を迎えました。その後は2016年6月の安値14,864.01円まで約1年間の調整を見せました。アベノミクスでは第1の矢(金融政策)と第2の矢(公共投資)がミックスされ効果を示しましたが、第3の矢(規制緩和、成長戦略)が不発となり停滞を余儀なくされました。また、第2の矢は名目の政府建設投資を2010年度の18兆円から2014年度の23.5兆円まで拡大させましたが、既に政府建設投資は、2016年度は20.5兆円と縮小傾向にあり息切れ状態。これが昨年の6月以降の株価上昇の足かせとなったと言えるのかも知れません。

さて、こうした中で第2次改造安倍内閣が発足しましたので、いよいよ具体的な経済政策が打ち出されるとの期待もあり結果として続・アベノミクス相場が既に始まっているのかも知れません。デフレ脱却を目指すアベノミクスは依然として道半ばと言えますが、株式相場にとってはどういう具体的な数字がクリアできれば成功と言えるのでしょうか。その答えは一概には言えませんが、株式相場に関わるものとしては日経平均が昨年の高値を抜いて21000円以上に躍り出たらその実感が生まれると考えます。

また、名目GDP600兆円、GDPの成長率2%といった目標は結果として日本株の時価総額が1989年のバブル崩壊時の水準600兆円余りを超えることで達成できると考えます。安倍首相の任期はあと2年ですが、任期延長があれば2020年の東京オリンピックが達成の目標時期になります。消費税増税の延期は凍結され、消費税減税すら実行に移されれば景気の回復に勢いが増して目標達成につながるというのが、やや夢想話のようではありますが、希望的な観測です。企業業績の向上には日本国内だけ頑張ってもダメで世界市場が着実に良くなっていく必要があります。先般のG7伊勢志摩サミットで安倍首相が主張したかったことのように思われます。

日本は世界最大の借金国との指摘がなされる一方で世界最大の債権国でもあり、日本国民のお金で米国の借金を賄っている現実がある点を忘れてはいけません。発行した国債は日銀が買い取ってお金に換えていけば済みますので、今後やるべきことは国債の日銀による買い取り増(今回は据え置いた施策)となります。また、マイナス金利幅拡大

東京 IPO 特別コラム

(これも据え置いた)については銀行株にネガティブに働くことがわかりストップ状態。日銀による ETF、国債、不動産 REIT などが施策として取られる一方で建設国債の発行で公共投資の拡大を図るなどの施策が打たれることとなります。都知事選でわかった抵抗勢力や体制に巣喰う連中があぶり出されてオリンピック利権を得るといった構図が白日の下にさらされることが現政権に課せられた課題とも言えます。既存のメディアへの批判はますます高まり、新たなメディアが私たちの生活を大きく変えようとしている現実を知る必要があります。創薬ベンチャー、介護ロボット、フィンテック、AI、VR、ドローン、IoT、ビッグデータといった次世代型のテーマ性を備えた銘柄に対する人気は折に触れて復活し、リスクマネーが市場に集まる展開を想定したいところです。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)